



現代を生きる

学校施設を活用して地域が 子どもたちを支えていく活動を

わくわくキッズ

実行委員長

桑原 清さん

(北栄町)

5月24日からスタートする当別小学校の校舎を利用して実施される「わくわくキッズ」の実行委員長を務める桑原さん。学校施設を活用して地域が子どもたちを支えていく活動に取り組みます。

以前から子供の居場所づくりの活動に携わっていたんですね

子どもたちは、放課後にも習い事などがあり、友達と会話する時間があまりないことから、気軽に話したり遊べる子どもたちの居場所をつくろうと学校、教育委員会、PTA、地域の方が協力して平成16年から平成18年まで、サタデーキッズスクールを実施していました。活動は、こども図書館やゆうゆう24、各種ボランティアなど、地域の方の協力、折り紙教室、読み聞かせから冬にはイグルーづくりまで、幅広く行うことができました。

子どもたちの活動を見ていると、1年生から6年生まで一緒に活動することで協力する心が芽生えました。ドッジボールでは、高学年が、低学年の子どもたちに片手ではなく、両手でボールを当て

たり、軽く投げたりする気遣いが見られました。こういった姿から、子どもたちの成長を感じることができました。

わくわくキッズはどんなことをするのですか

わくわくキッズは、月に1回体験できるイベントを開催していきます。折り紙教室、豆腐・バター・チーズづくり、まが玉づくり、化石教室などを企画できればと考えています。さらに、こうした活動を通じて、子どもたちが文化に触れあう機会の拡大につながればと考えています。

歴史や農業、文化など様々な分野に詳しい方が協力して下さることによって、学習の幅が広がるのではないのでしょうか。例えば、郷土史研究サークルの人たちの協力・指導の下で、当別の開拓につ

いて調べる場合、当時はどうやって食料を確保したのか、泥炭地が広がる当別でいかにして稲作が始まったのかなど、不思議に感じたことを調べていくことで学習に興味を持ち、理解力が深まると思います。このことで、単に子どもの居場所づくりになるだけでなく、知識も広がっていくのではないかと考えています。当別は、各種サークル活動やボランティア活動が盛んなことに加えて農業環境、すなわち田畑が近くにあり、地域の力と子どもたちの力を結びつけることができれば、もっと面白い活動につながっていくのではないのでしょうか。

地域の輪、人と人とのつながりを生かして、わくわくキッズを盛り上げていきたいと思っています。

講座のスタッフ、子どもたちを見守るスタッフを募集しています。是非、みなさんの参加をお待ちしています。